

母塾

VOI-13

2019・2・19



新小岩幼稚園・未就園児クラス

『長男談義 その2』

アドバイザー 猪之鼻晴子

どのママと話しても長男についての話題は尽きない。
「本当にどうしてそうなんだろう、うちの子も」と共感するもの。
欲がない・のんびりしている・空気が読めない・トラブルが多い・反省しない・臆病・
「お稽古事を始めたら、大して楽しくもなさそうなのに、なぜかやめない」という
共通点もあった。数え上げたらきりが無いほどママとしては気になることが多い。

「どうして？ どうして？」という疑問は自分が理解できない、納得できないことだ。
たぶん「子ども」「男性」「他人」というものへの疑問の大きなかたまりが長男なのだ。
私が23才の長男と暮らしてきて得た「長男を見る方法」がある。

- ① 見過ぎない・・・ ずっと子どもを見過ぎている。それも子どもの今の行動ではなく、自分が気になっていることばかりを見過ぎている。「ほらね」と弱点や失敗を得意げに取り上げてしまう。
- ② トンネル工事仲間・・・長男と自分は親と子でもあるが、「トンネル工事仲間」でもある。何から何まで初めての体験を一緒に掘ってくれる仲間なのだ。次に子どもが生まれてもその時も先頭に立って一緒に掘っている。いつも失敗の泥にまみれて横に居る。
- ③ 自分の投影・・・ 長男は「自分」が一番濃く映してくれる。長男に言いたいことは本当は自分に言いたいこと。自分に対して気にしていることを長男が派手に見せてくれている。自分が気を付けた方が良いという暗示をくれる。
- ④ 小さい頃の自分・・・ 長男は「小さい頃の自分」の姿である。長男に注意していることは全部親に言われ続けた言葉。「ぐずぐずしない」「めそめそしない」「最後までやりなさい」親に言われてきた呪文をまたくりかえして唱えてしまう。

こうして見てみると、一番初めに生まれた子どもとはいろいろ大変なのだと思う。

もう社会人になった子に「時間の使い方下手なんじゃない？ 余裕ないじゃない。」と言ってから、はっと思う。それは私に対しての暗示か。「だらしない。ちゃんとしなさい。」と言いつつになって、あ、そのセリフは母の私への決まり文句だったなと思い出す。長男と数々の失敗を繰り返しながら過ごした年月。トンネル掘りの工事の後から、次に続く妹や弟は割と涼しい顔で歩いている気がする。

そう考えてみると、防波堤の長男に少し優しくおかずを増やしてみようかななどと思えてくる。